

## ごあいさつ

美麻小中学校は、平成26年度に小中一貫教育学校・コミュニティ・スクールとして新たに生まれ変わりました。また、本校はもともと小中併設校として約40年の歴史を持っていましたが、少子化の流れのなかで児童生徒の減少に歯止めがかからず、平成27年度より今後の児童生徒数確保のために小規模特認校制度を取り入れています。この制度は、大町市内全域を通学区として、保護者、児童生徒の希望により、市教育委員会の許可によって本校への通学を認めるものです。小中一貫教育・コミュニティ・スクール・小規模特認校制度を本校の大きな特色とし、平成29年度には、新たに義務教育学校「美麻小中学校」となりました。令和3年度となりましたが、義務教育学校として5年目となりました。

学校としての本来の機能は、児童生徒の健やかな成長を扶けることであり、特に生涯にわたって生きる（使える）学力をつけることが最重要課題です。それは、コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースにシフトされた教育による学力であると考えます。換言すれば、「何を知っているか」から、「何を使って、どのように解決するか」を考えさせいく教育になります。知識や技能の量をいくら増やしても、それらを活用して問題を解決していく方法を知らなければ、獲得した知識や技能は十分に生かされません。つまり、身につけなければならない学力は、いわゆる「生きる力」であると考えます。しかし、全国的に「生きる力を育む」として言葉の定着は図られていますが、まだまだ実が伴わない現状があると思います。

そこで本校は、「自律した学習者」を育てることを教育の目的として、「協働の学び」「非認知能力(メタ認知力含む)」による授業によって、生涯学び続けるための基礎力をつけ、様々な領域を超えて機能する資質・能力を伸ばしていくことを目指します。これは、まさに生きる力を育む教育と同義であると考えます。

9年間の義務教育を一貫して行うことができる本校の特色を生かし、目標と目的の実現に向けて、全教職員の力を集結、発揮して教育活動に取り組んで参ります。未来を生きる子どもの資質・能力を最大限に伸ばしていけるように、地域の方々と協働し、保護者の皆様の



ご理解・ご支援を賜りながら、教職員一同全力を尽くして美麻の子どもの教育にあたります。今後も関係者の皆様には、様々な面においてご示唆・ご協力を賜りますことをお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

大町市立美麻小中学校  
校長 山岸 澄雄